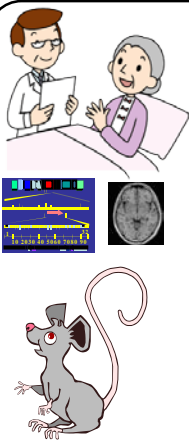


気分障害の病態解明と新規治療法の開発

根拠に基づく医療の実現を目指した研究の実践

精神薬理研究部では、最終目標を「精神疾患の克服を目指した研究開発を行い、研究成果を目の前の医療に活かす」と定義し、当センターの事業計画における位置づけを明確化している。具体的には、わが国において重要な政策課題となっているうつ病に代表される気分障害や不安障害に焦点を当て、精神薬理学をバックボーンとする研究手法を用い、政策立案に必須となる臨床研究を実施するとともに、非臨床ステージにおける創薬研究を中心とした精神神経疾患の治療介入法の研究開発を行っている。

臨床と直結する研究戦略



- ・ 新規創薬シーズの探索から行動薬理試験によるPOC確認までの戦略的な基盤的創薬研究プロジェクト
- ・ デルタ受容体仮説, グルタミン酸仮説による病態モデル研究

社会実装を見据えた多施設共同研究

- ・ 抗うつ薬の最適使用戦略を確立するための多施設共同無作為化比較試験 (SUN ☺ D study)
- ・ 薬物療法抵抗性大うつ病に対するスマートフォン認知行動療法とエスシタロプラム併用療法の無作為割付比較試験 (FLATT study)

- ・ 臨床研究と生物学的モデルのインタラクション
- ・ 新規バイオマーカーの探索とイノベーション

- ・ 精神保健施策への実証的根拠の提示
- ・ 生物統計家等との学際的協働

こころの健康の保持増進